
Fiery EX2000シリーズ / Fiery EXP6000 カラーサーバ

MSBLAST対応Patch補足説明書

このたびは、Fiery EX2000/EX2000d、Fiery EXP6000カラーサーバをご利用いただき、まことにありがとうございます。

本書では、MSBLASTおよびMSBLASTの亜種などのコンピューターウイルスに対して、次の製品に対応したセキュリティ対策方法について説明します。

- ・ Fiery EX2000 カラーサーバ システムソフトウェアバージョン 1.22J
- ・ Fiery EX2000d カラーサーバ システムソフトウェアバージョン 1.22J/2.0J
- ・ Fiery EXP6000 カラーサーバ システムソフトウェアバージョン 1.1J

なお、Fiery EX2000 カラーサーバ システムソフトウェアバージョン 1.1Jをお使いの場合には、Patchソフトウェアを適用する前に、ソフトウェアバージョンを1.22Jへアップグレードしていただく必要があります。

補足： システムソフトウェアのアップグレードに関しては、弊社営業担当者までお問合せください。

補足： 本書では、Fiery EX2000を「EX2000」、Fiery EX2000dを「EX2000d」、Fiery EXP6000を「EXP6000」、またFiery EX2000、Fiery EX2000d、Fiery EXP6000を総称して「Fieryカラーサーバ」と、それぞれ略しています。

「システムソフトウェアバージョン 1.22J」を「v1.2J」、「システムソフトウェアバージョン 2.0J」を「v2.0J」と略します。

MSBLASTとFieryカラーサーバについて

MSBLASTおよびその亜種は、対象となるサーバのTCP135 ポート (Microsoft RPC) に対して、MS03-026の脆弱性を悪用した攻撃データを送信します。

補足： 2003年8月21日現在、MSBLASTおよびその亜種の情報については、マイクロソフト株式会社のホームページを参照してください。

<http://www.microsoft.com/japan/technet/security/virus/blaster.asp>

Fieryカラーサーバでは、オペレーティングシステムとして、Windows NT® WorkStation Version 4.0ベースの組み込み専用OSを使用しています。

2003年8月20日現在のアンチウイルスソフトウェアメーカーの情報では、Windows NT 4.0に感染することがないと報じられており、Color DocuTechシリーズ用Fieryカラーサーバが感染するおそれはありません。

しかしながら、同様の脆弱性が存在しますので、MSBLASTウイルスに感染したコンピュータからの攻撃により、まれにFieryカラーサーバが再起動するなどの影響を受ける可能性があります。

- ・ 株式会社シマンテック W32.Blaster.Wormに関するURL

<http://www.symantec.co.jp/region/jp/sarcj/data/w/w32.blaster.worm.html>

-
- ・トレンドマイクロ株式会社 WORM_MSBLAST.Aに関するURL

<http://www.trendmicro.co.jp/msblast/whats.asp>

Fieryカラーサーバでは、弊社が提供するPatchソフトウェア(1-ANC1A.ps)を適用することで、MS03-026の脆弱性を修正できます。

補足: 2003年8月21日現在、マイクロソフト株式会社のホームページには、MS03-026とMS03-007を適用するように記述がありますが、本Patchソフトウェアを適用するだけで、MSBLASTおよびその亜種などのコンピューターウイルスによる影響を受けなくなります。本脆弱性に対してマイクロソフト株式会社が提供する修正プログラム(MS03-007、およびMS03-026)は適用しないでください。

補足: Fieryカラーサーバでは、Microsoft Internet Information Server (IIS) がインストールされていないため、MS03-007の脆弱性に対応する必要はありません。

対策方法について

お使いいただいているFieryカラーサーバに対して、『Fiery EXP6000 カラーサーバ セキュリティ対策に関する補足情報』、あるいは『Fiery EX2000シリーズ カラーサーバ セキュリティ対策に関する補足情報』を参照し、ウイルススキャンならびに駆除を行ってください。

続いて、弊社が提供するPatchソフトウェア(1-ANC1A.ps)を、Fieryカラーサーバに適用してください。

注意: マイクロソフト株式会社のホームページに記載されている確認方法では、本Patchソフトウェアが正しく適用されたことを確認できません。本書に記載された方法にてご確認ください。

EX2000/EX2000d v1.2Jでのパッチ適用方法

ここでは、次のFieryカラーサーバに対するパッチのインストール手順、およびパッチ適用の確認方法について説明します。

- ・ Fiery EX2000 カラーサーバ v1.2J
- ・ Fiery EX2000d カラーサーバ v1.2J

1. Fieryカラーサーバのデスクトップ上に次のPatchソフトウェアをコピーしてください。

- ・ 1-ANC1A.ps

補足: Patchソフトウェアの入手方法については、弊社営業担当者にお問い合わせください。

2. 適用されているPatchソフトウェアがあるかどうかを確認します。

Command WorkStationの[ファイル]メニュー、[ページの印刷]から[設定情報ペー

ジ]を選択し、プリントします。

設定情報ページの[更新情報]に、次のPatchソフトウェア名がプリントされている場合、そのパッチを適用する必要はありません。

- ・ 1-ANC1A

3. Command WorkStationを用いて、「1-ANC1A.ps」パッチを、印刷キューヘダウンロードします。

ダウンロード完了後、Command WorkStationの印刷キュー上に、「1-ANC1A.ps」が表示されていることを確認してください。

4. Fieryバーから、[Fiery再起動]を選択します。

5. Fiery再起動が終了したら、システムを再起動します。

6. パッチが適用されたことを確認します。

システムの再起動後に、手順2.を実施し、「1-ANC1A.ps」パッチがプリントされていることを確認してください。

EX2000d v2.0J/EXP6000 v1.1Jでのパッチ適用方法

ここでは、次のFieryカラーサーバに対するパッチのインストール手順、およびパッチ適用の確認方法について説明します。

- ・ Fiery EX2000d カラーサーバ v2.0J
- ・ Fiery EXP6000 カラーサーバ v1.1J

1. Fieryカラーサーバのデスクトップ上に次のPatchソフトウェアをコピーしてください。

- ・ 1-ANC1A.ps

補足： Patchソフトウェアの入手方法については、弊社営業担当者にお問い合わせください。

2. 適用されているPatchソフトウェアがあるかどうかを確認します。

Command WorkStationの[サーバ]メニューから、[ページの印刷]を選択し、[設定情報ページ]をプリントします。

設定情報ページの[更新情報]に、次のPatchソフトウェア名がプリントされている場合、そのパッチを適用する必要はありません。

- ・ 1-ANC1A

3. Command WorkStationを用いて、「1-ANC1A.ps」パッチを、印刷キューヘインポートします。

インポート完了後、Command WorkStationの印刷キュー上に「1-ANC1A.ps」

が表示されていることを確認してください。

4. Fieryバーから、[Fiery再起動]を選択します。
5. Fiery再起動が終了したら、システムを再起動します。
6. パッチが適用されたことを確認します。
システムの再起動後に、手順2.を実施し、「1-ANC1A.ps」パッチがプリントされていることを確認してください。

「Microsoft」「Windows」「Windows NT」は、
米国Microsoft Corporation（マイクロソフト社）の米国およびその他の国における登録商標です。

著作者	富士ゼロックス株式会社	発行年月	2003年8月 第1版
発行者	富士ゼロックス株式会社 ドキュメント プロダクト&サプライ カンパニー ヒューマンインターフェイスデザイン開発部	帳票 No.	ME3204J1-1